三瀧寺：平和関連の記念碑

爆心地から約 3.2km の場所に位置していたため、三瀧寺の木造建築は、1945 年 8 月 6 日の原爆によって大きな構造的損傷を受けました。本堂の屋根は落ちましたが、建物は火事に見舞われなかったため、中にあった御神体は失われずに残りました。その後、本堂の建物は完全に再建されましたが、近くにある、“ogre”のような神話的存在である「鬼」を祀った神社には原爆による損傷が今も見て取れます。屋根を支えている丈夫な木の柱が歪んでいますが、壊れはせず、神社の大部分は損なわれずに残りました。

寺は長い間、死者に祈りを捧げる共通の場所であり続けましたが、戦争以降は、その犠牲者を記念したり世界平和を主張する積極的な役割を負ってきました。寺の入り口にある色鮮やかな朱色の多宝塔は、1951 年に原爆犠牲者記念式典の一部として和歌山県の神社から移されたものです。寺に流れる 4 つの小川の澄んだ山水は、広島平和公園での毎年の記念式典で供物として奉納されてきました。

寺の敷地内に散らばっている祠や記念碑は、原爆以外の悲劇や衝突の犠牲者を記録するものです。アウシュビッツの強制収容所で亡くなった人達のため英語と日本語で献呈の辞が書かれた石の記念碑があります。記念碑の上方のワイヤーには、犠牲者の遺骨の一部を広島へ運ぶために使用された、錆びた金属の容器が設置されています。

寺の茶室は、心癒されるような滝のそばにあり、毎年 1 週間だけ、通常 11 月の第 3 週に公開されます。地元住民や世界平和の主唱者にも人気のあるスポットで、ダライ・ラマも日本訪問中にこの茶室に滞在したことがあります。